

甲府駅北口に100畳の畠空間が出現！

～山梨たたみ祭り100畠だヨ！全員集合！～



山梨県畠同業組合連合会

山梨県畠同業組合連合会（組合員46社／理事長：宇佐美真一）は、10月5日（日）に「山梨たたみ祭り100畠だヨ！全員集合！」を開催した。甲府駅北口ペデストリアンデッキに100畠の畠を敷き詰め、誰もが自由にくつろげる“和の空間”を提供するという、県内初の試みに挑戦した。

本イベントは、「畠の力で日本人の心を豊かにし、昔ながらの日本文化を感じながら気軽に畠と親しんでほしい」との趣旨で企画されたもので、畠の原材料である「い草」の生産量が日本一を誇る熊本県八代市（農業振興課）やJA八代、い草生産者の担当者らと連携して実施された。

当日は、大規模なくつろぎスペースのほか、畠やい草の魅力を体感できるコーナーも設けられた。来場者は、畠の香りや心地よい感触を直接味わいながら、古くから日本の生活に寄り添ってきた畠文化を再発見。ワークショップでは、い草を使った小物づくりを体験でき、子どもから大人



2025山梨たたみ祭り100畠だヨ！
全員集合！

まで幅広い世代が和文化を身近に感じる機会となった。さらに、写真映えするフォトスポットも用意され、家族連れにも楽しめ

る工夫が随所に施された。

また、注目すべきはイベントで使用した畠が甲府市に寄贈された点である。寄贈畠は、災害時の避難所などで活用され、避難生活の質の向上に役立てられる予定。受納式は10月6日（月）に甲府市役所で行われ、樋口雄一甲府市長をはじめ、甲府市防災企画課、組合役員、熊本県八代市の関係者らが出席し、防災と地域貢献の両面で意義ある取り組みとなった。

宇佐美真一理事長は、「畠の心地よさを体験してもらい、暮らしの中に“和の文化”を取り入れるきっかけになればうれしい。甲府駅に突如現れる“100畠の和空間”は、畠がもつ温かさと安心感を地域社会に再認識してもらう試みとなった。来場者が畠の上でひとときの安らぎを感じ、同時に未来への防災備えにもつながる『山梨たたみ祭り』は、畠文化の新たな可能性を示す一日となった」と語った。



甲府市役所で行われた受納式